

古木に関する調査報告（１）

理学部	立石 雅昭	（地質学）
大学院自然科学研究科	中田 誠	（森林環境学）
大学院自然科学研究科	宮下 純夫	（地質学）

24日の新聞で全国的に報道された、中越沖地震に伴って出雲崎沖海底に大量に出現・横たわって、最盛期を迎えている漁業に多大な影響を与えている古木群に関する調査・研究に取り組みます。多くの研究機関の方が見学に訪れ、試料入手希望も殺到しているようです。私たちは、新潟大学調査団の中の1グループとして、科学的にこれらの古木の海底並びに海底下での賦存状況、形成過程など調査します。まず、第1報として、新潟県水産課ならびに新潟県水産海洋研究所、出雲崎漁港などへの問い合わせと現地見学などの結果を報告します。なお、県水産課・水産科学研究所では海底のビデオを撮影しました。これについては、大学院自然科学研究科自然構造科学専攻宮下純夫教授のもとにDVDの形で届けられています。DVD配布希望の方は彼のもとにご連絡なさってください。

引き上げられ、野積みになっている古木群およびその切断断面の写真をいくつか掲載します。



中田撮影：
古木の切断面（１）



中田撮影：
古木の切断面（２）



中田撮影：
古木の近接撮影



宮下撮影：
出雲崎漁港に引き上げられた古木群。漁協では操業の合間に引き上げを順次進めている。

まだ、系統的な検討を行っていませんが、現在、これら古木の年代測定（これについては産業技術総合研究所活断層研究グループ対応）と樹種の検討（中田グループ）が進められています。残念ながら、年代測定は現在、新潟大学では行えません。是非とも、測定装置を導入したいと思います。地質グループでは、6日から4日間ほど、サイドスキャンソナーで海底の表層の形状（比較的大きな古木の産状、配列や集中度など）を調査する予定です。続報を順次掲載します。